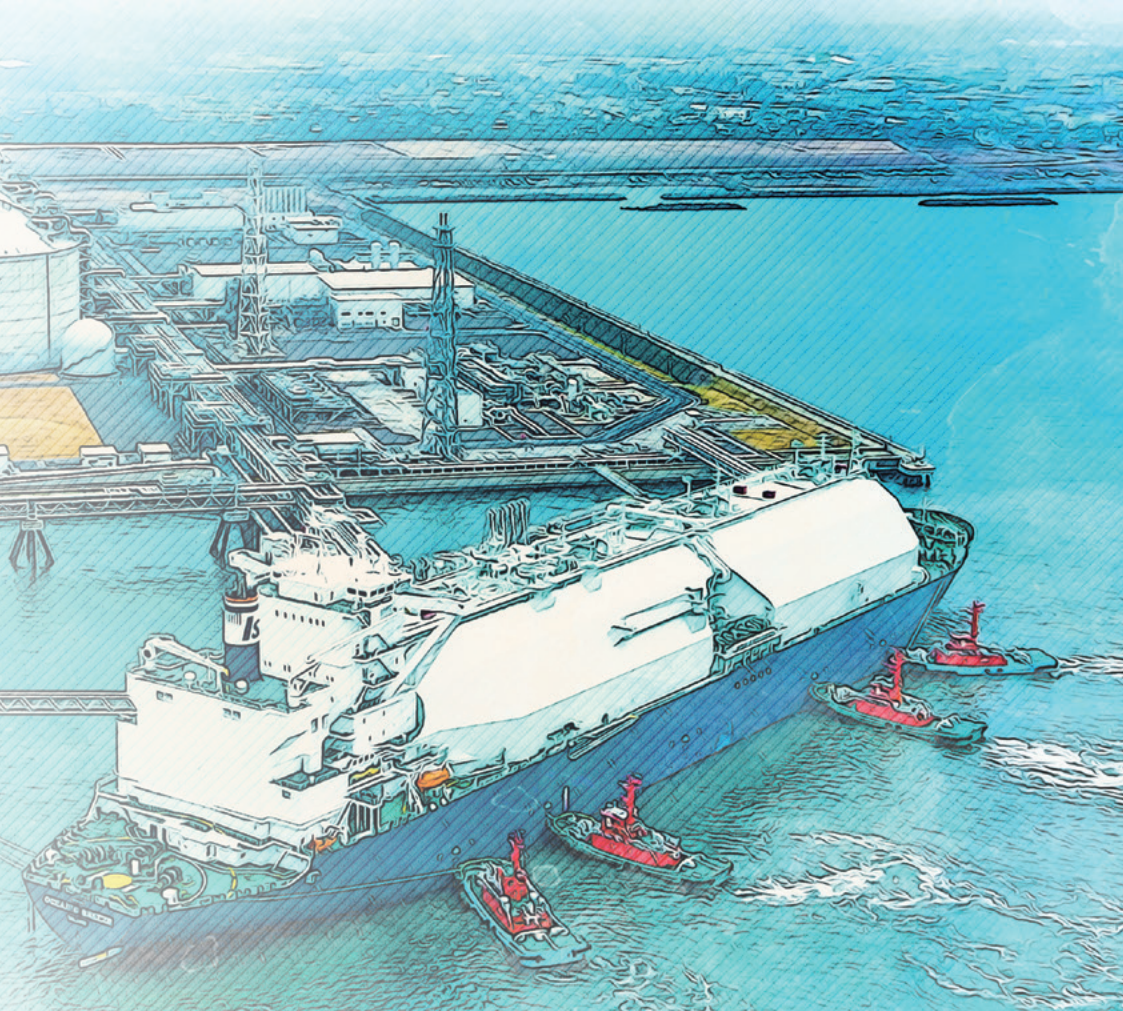
INPEXの理念



経営理念

**私たちは、
エネルギーの開発・生産・供給を、
持続可能な形で実現することを通じて、
より豊かな社会づくりに貢献します。**

サステナビリティ憲章

当社グループは、
事業活動を通じて社会的責任を果たす信頼される企業であり続けるとともに、
中長期的かつ持続的な企業価値の向上を図ります。
経営トップの率先垂範の下、実効あるガバナンス体制を構築して
社内・グループ企業に周知徹底を図り、
ステークホルダーの関心に配慮しつつ、7つの原則に基づき、
事業やバリューチェーンを通じてサステナビリティの課題に積極的に取り組んでいきます。

- 社会に不可欠なエネルギーを、よりクリーンな形で安定的かつ効率的に供給します。
- 気候変動対応やネットゼロカーボン社会への移行に貢献するべく、エネルギー構造の変革に積極的に取り組みます。
- 従業員をはじめ事業に関わる全ての人々の健康と安全を確保し、安全操業・管理を徹底します。また、地球環境課題に取り組み、環境価値の創造に努めます。
- 法令を遵守し、人権を含む各種の国際規範や操業地域における社会的規範に沿った良識ある行動をとります。
- 広くステークホルダーとのコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示します。
- ダイバーシティを尊重するとともに、働きやすい環境や人材の能力を最大限に発揮する機会を提供し、活力とイノベーションの創出につなげます。
- 各国・各地域の文化・習慣に配慮し、当該国・地域の経済社会の発展に貢献します。

INPEX Values

当社グループでは、役員・従業員が共通して大切にする価値観として、5つの項目からなる「INPEX Values」を定めています。
役員・従業員が一体となって働くためには「INPEX Values」を実践することが重要と認識しており、グループ全体での「INPEX Values Awards」や過年度の受賞者を対象にしたカンファレンス開催、新入社員やキャリア採用者を対象とした説明会の実施など、様々な浸透活動に取り組んでいます。
Valuesを体現したことでINPEX Values Awardsを受賞した従業員の声と推薦者のコメントを紹介します。

INPEX Masela, Ltd.
Torang Iandre Bumbunan

相手の考えを理解するには、まず耳を傾けることが“協働”の第一歩です

2024年よりジャカルタに駐在し、アバディLNGプロジェクトの主要契約及び調達業務を統括しています。Dual FEED契約の推進においては、困難な局面においても前向きな姿勢を保ち、メンバーの士気を高めながら、社内外のステークホルダーとの調整を主導し、契約合意に貢献しました。

株式会社INPEX JAPAN
操業本部
渡邉 美恵

一期一会の精神で最大限のホスピタリティを追求しました

直江津LNG基地見学対応において、日々の“創意工夫”で、来訪者一人ひとりに寄り添って柔軟に対応しました。株主見学会では本社・現地スタッフと協働し、様々な意見を反映させながら常に改善を重ねました。その姿勢は“創意工夫”の模範として高く評価されました。

Collaboration
協働

チームワークを大切にし、社内及び地域社会を含めた社外の関係者と協力すること

Safety
安全第一

安全第一で考え、行動し、安全文化を深化させること

Ingenuity
創意工夫

現状に満足せず、新しい視点や発想からより良いものを追求すること

Integrity
誠実

常に高い倫理観を持ち、実直で、周囲から信頼される行動をとること

Diversity
多様性

多種多様な人材が活躍できるよう性別、年齢、国籍、文化、習慣等の違いを受け入れ、尊重すること

INPEX Idemitsu Norge AS
Ida Rinde Hvål

INPEX Values、そして私たちが大切にしている“多様性”こそが、会社全体をつなぐ共通の基盤となっていると実感しています

INPEX Idemitsu Norge ASのコミュニケーションアドバイザーとして、ムンク美術館との協賛、大規模な国際展示会への参加など、文化・多様性を尊重する活動を推進しました。仕事を通じてノルウェーにおけるINPEXブランドの向上に大きく貢献しました。

Ichthys Booster Compressor Module※ Team

皆が前向きな姿勢を保ち、“安全第一”への強い意識を共有しています

Booster Compressor Moduleチームは、COVID-19及びロシア・ウクライナ戦争に起因するサプライチェーンの混乱、国際拠点間での複雑な調整など、数多くの課題に直面しました。“安全第一”の理念を徹底し、建設ヤードからのBooster Compressor Module出荷の際には、延べ400万時間の労働における休業災害ゼロという素晴らしい成果をあげました。

※ Booster Compressor Module（低圧生産設備）

首都圏CCSプロジェクト
地元交渉チーム

我々は地元の土地や海をお借りする立場であることを肝に銘じています

首都圏CCSプロジェクトの地元交渉チームは、各地域の自治体、町内会、地権者、漁業者など多様な関係者と向き合い、“誠実”かつ粘り強い交渉を通じて信頼を築いています。相手の立場や地域の事情を理解しながら、複雑な利害を丁寧に調整し、困難な交渉や事業を円滑に前進させています。

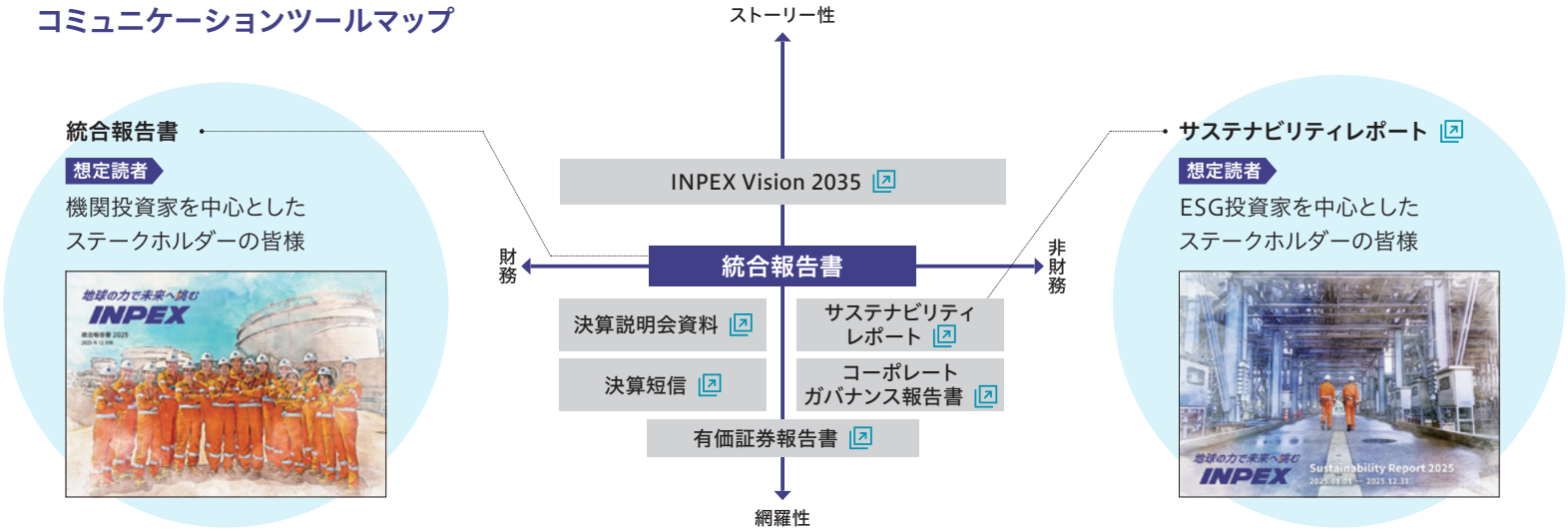
「統合報告書2025」の発行にあたって

INPEXは、「エネルギーの開発・生産・供給を持続可能な形で実現することを通じて、より豊かな社会づくりに貢献する」という経営理念のもと、事業を展開しています。IRグループの重要な役割は当社の価値創造ストーリーや中長期的な成長戦略、そして持続的な企業価値向上への取り組みを国内外の様々なステークホルダーの皆様にご理解いただき、経営とステークホルダーをつなげることであると考えます。そのため、財務・非財務情報を一体的かつ効果的にお伝えするため、ストーリー性と網羅性の観点から開示媒体ごとに役割を明確にし、統合報告書をはじめとする各種開示物を作成しています。本統合報告書では、当社の中長期的な価値創造戦略を中心に掲載しており、あわせてサステナビリティレポートをご覧いただくことで、ESGへの具体的な取り組みやその進捗状況もご確認いただけます。

「統合報告書2024」からの改善点

- マネジメント層だけでなく若手社員の声を掲載することで、当社が大切にしている価値観や目指す姿が組織全体で共有・実践されている事を示し、従業員が一体となって成長に取り組む姿を表現
- 事業規模・収益力・技術力・人的基盤・株主還元などの強みを整理し、当社の全体像を一目で把握いただける「INPEX at a Glance」を新設。あわせて、「価値創造のあゆみ」では、これまでに獲得してきた強みと成長の過程を営業キャッシュ・フローおよび時価総額の推移とともに示し、継続的な成長を可視化
- 既存事業で培った人材の知見の継承と新規事業への展開を通じて、事業の連続性を示すとともに、当社が持続的に成長していくストーリーを表現

コミュニケーションツールマップ



報告対象範囲など

対象期間
2025年1月1日～2025年12月31日

対象組織
株式会社INPEX単体及びINPEXグループ

会計基準
2023年12月期より国際会計基準（IFRS）
（2022年までは日本基準）

参考としたガイドライン

IFRS財団が提唱する
「国際統合報告フレームワーク」

経済産業省が発表した
「価値協創ガイダンス」など

発行時期

2026年7月発行

見通しに関する注意事項

本統合報告書は、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでいます。
係る将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定及び判断に基づくものであり、これには既知又は未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。
係るリスク、不確実性及びその他の要因は、係る将来予想に関する情報に明示的又は黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。
係るリスク、不確実性及びその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

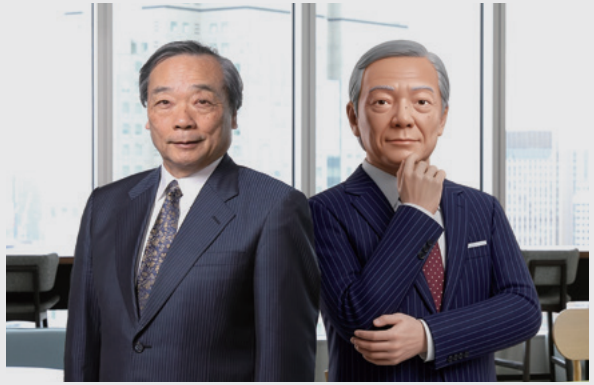
- 原油及び天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱、開発、生産に関連するコスト又はその他の支出の変化

当社は、本統合報告書に掲載される情報（将来予想に関する情報を含む）をその掲載日後において更新又は修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

01 Introduction
イントロダクション
01 INPEXの理念
02 INPEX Values
03 「統合報告書2025」の発行にあたって
04 目次
05 INPEX at a Glance
06 価値創造のあゆみ

07 Management Message
特集 マネジメントメッセージ



07 社長メッセージ
12 経営企画本部長×財務・経理本部長対談
18 社外取締役座談会
23 新任社外取締役メッセージ

24 Growth Strategy
成長戦略

24 INPEXの事業
26 価値創造プロセス
27 INPEX Vision 2035
28 プロジェクト状況 1
石油・天然ガス/LNG分野
35 プロジェクト状況 2
低炭素化ソリューション
39 プロジェクト状況 3
エネルギー・資源分野での新たな挑戦
40 技術戦略
41 事業優位性の核となる技術力獲得・強化に向けたR&D
42 デジタル戦略：デジタルの力で変革に挑む
43 トレーディング機能の強化
44 リスクマネジメント

45 Promoting Sustainability
サステナビリティ推進の取組み
45 サステナビリティレポート2025
46 サステナビリティマネジメント
47 気候変動対応
48 セーフティ
49 人的資本
53 コーポレートガバナンス

66 Data Section
データセクション
66 サステナビリティハイライト
68 財務・事業ハイライト
72 セグメント別財務情報
73 11年間の主要財務情報
75 INPEXグリーンファイナンス 年次レポーティング
76 石油・天然ガスの埋蔵量及び生産量について
79 会社情報

INPEX at a Glance

当社は「日本最大規模のエネルギー開発企業」です。
エネルギーの安定供給という社会的使命を果たしながら、確かな収益力と技術力を基盤に、持続的な企業価値の向上を追求しています。

従業員数

3,720人

外国人従業員比率

43.2%

男性育児休業取得率

78.1%

多様な人材が集まるグローバルカンパニー

男性も当たり前に
育児に参画できる職場

当期利益

3,938億円

探鉱前営業CF

8,626億円

低油価という外部環境でありながらも
2022年、2024年に次ぐ過去３番目の高水準

プロジェクト展開国数

約20か国

プロジェクト数

約110

5つのコアエリアを中心としたグローバル展開

ネット生産量

約63.8万バレル/日

2035年時点で80万バレル/日を目指します

日本の年間
エネルギー消費量の
約1割に相当

株主還元

総還元性向

55%

1株当たり年間配当金

100円/株

「累進配当」及び「総還元性向50%以上」を着実に実行中

技術力

オペレーター経験

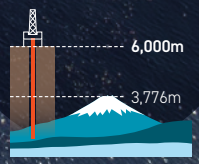
国　内　**1942年～**

豪　州　**1998年～**

80年以上にわたり日本のエネルギー安全保障を牽引

国内No.1の実績

掘削深度 6,310m



注　2025年12月末時点

Courtesy Capt. Serge Prakhov

価値創造のあゆみ

私たちは、石油・天然ガスの探鉱・開発・生産という上流事業を中核として発展してきました。ネットゼロへの移行過程においても石油及び天然ガス/LNGをクリーンなかたちで安定供給し、CCS/水素をコアとした低炭素化ソリューション等の提供を目指します。2050年ネットゼロに向け、より豊かな社会づくりに貢献するとともに、持続的な企業価値の向上を実現していきます。

▶「沿革」については こちら をご参照ください。

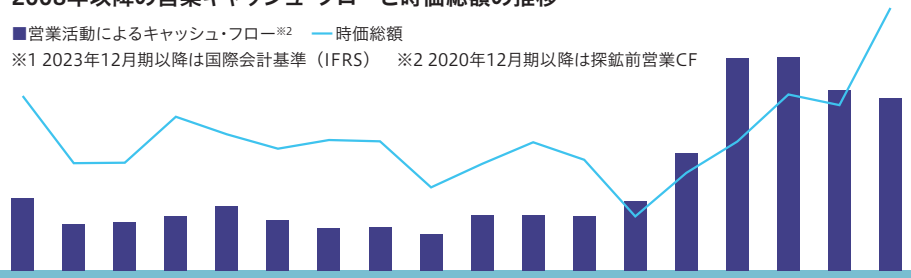
今日も、明日も、これからも、エネルギーを届け、成長し続ける企業へ

2025年度

探鉱前営業CF **8,626億円**　時価総額 **約3.6兆円**

（2025年12月30日終値、自己株式除く）

2008年以降の営業キャッシュ・フローと時価総額の推移[※1]



※1 2023年12月期以降は国際会計基準（IFRS）　※2 2020年12月期以降は探鉱前営業CF

1950　1960　1970　1980　1990　2000　2010　2020

1941 帝国石油㈱ 設立

1966 国際石油開発㈱設立

1973 ジャパン石油開発㈱設立

2008 国際石油開発帝石㈱発足

2021 ㈱INPEXへ商号変更

1940年代～1990年代後半：エネルギー供給基盤の確立　**2000年代前半～現在：グローバルガスバリューチェーンの構築**　**2030年初頭～：アバディ生産開始へ**

国内における
石油・天然ガスの生産開始

インドネシア マハカム沖
油・ガス田の生産開始

アラブ首長国連邦
アブダビプロジェクトの生産開始

直江津LNG基地の操業開始

オーストラリア
イクシスLNGプロジェクトの生産開始

インドネシア
アバディガス田改定開発計画の承認

創出価値 1

国内における石油・天然ガスの陸上開発及び生産能力の獲得

国内において1942年から石油・天然ガスの探鉱・開発・生産活動を行っています。1984年には、日本最大級の南長岡ガス田からの生産を開始しました。これにより天然ガスの長期安定供給が可能となったことから、天然ガスの輸送能力の増強、すなわちパイプライン網の拡充とそれによる拡販へと大きく舵を切りました。

創出価値 2

政府・業界・地域住民等ステークホルダーとの信頼関係の構築

1966年にインドネシア政府と生産分与契約を締結したことから、1972年にはマハカム沖において原油及び天然ガスの生産を開始しました。ボンタンLNGプラントは世界最大級のLNG生産基地の一つであり、当社の成長に大きく貢献しました。また、1973年にはアラブ首長国連邦アブダビ沖のADMA鉱区権益に参加し、1982年より同海域最大の油田である上部ザグム油田の生産を開始しました。2015年にはアブダビ陸上鉱区の権益を取得し、生産を継続しています。ここで構築したインドネシア政府、アラブ首長国連邦（UAE）との緊密なパートナーシップは現在まで続くプロジェクト継続の礎となっています。

創出価値 3

グローバルガスサプライチェーン体制への進化

2013年には、海外からのLNGを受け入れる直江津LNG基地が稼働しました。本基地でLNGを気化し、熱量を調整したのちに天然ガスパイプラインネットワークを通じて需要家へお届けしています。また、2018年よりオーストラリアのイクシスLNGプロジェクトからのLNGの受入れを開始しています。こうして、オーストラリア産のLNGと日本国内の天然ガスインフラが有機的に結びつくことで、当社は、海外でのガス田の生産操業、液化、LNG船での輸送、LNGの受入れ・気化をも含む全ての工程を一気通貫で行うガスサプライチェーンへと大きな進化を遂げました。

創出価値 4

日本初の大型LNGプロジェクトのオペレーターとしての技術力とプロジェクトマネジメントスキル

2018年からイクシスの生産を開始し、安定操業を継続しています。また、日本企業初の大型LNGプロジェクトの操業主体（オペレーター）を担うことで、大型LNGプロジェクトの探鉱・開発・生産・プロジェクトマネジメントの重要な知見・ノウハウを蓄積しました。これらの知見はアバディLNGプロジェクトの計画・設計に最大限反映されています。